

# お米の未来を考えよう

日本人の主食であるお米は、炭水化物、タンパク質、ビタミン、ミネラルなどを含む、体の機能を維持するために不可欠な栄養素をバランスよく摂取できる食品です。乾燥した状態で長期保存ができる保存性があるため、飢餓の備えや食料供給の安定に貢献してきました。

そんなお米が将来食べられなくなってしまうかもしれません。今回はその原因からお米の未来について考えていきます。



## お米が育たなくなる原因は？

### 原因その①気候変動による影響

1. 気候変動による影響：稲が穂を出す期間に高温が続くと、玄米の胚乳内のデンプン粒の蓄積が不十分な「白未熟粒」や、ひび割れた「胴割れ米」などが発生し、お米の品質や収量が低下します。近年の地球温暖化に伴う平均気温の上昇により、高温障害が発生しており、適切な時期に田植えを行うことが難しくなっています。このため、高温時期を避けるための栽培管理が重要になっています。温暖化すると強い雨が增える頻度は増え、一方弱い雨の頻度が減ります。弱い雨も降らない日数が増え、それによって干ばつの日数は増えます。(\*1) 稲作には大量の水が必要であるため、長期間雨が降らないと、田んぼが枯れてしまい、稲の生育に大きな打撃を与えます。
2. 病害虫の増加：気温の上昇に伴い、これまで見られなかった病害虫が発生・増加し、収量に影響を与える可能性があります。
3. 耕作地の減少：工業用地や宅地など、農業以外の用途に土地が使われることで、田んぼの面積そのものが減っています。

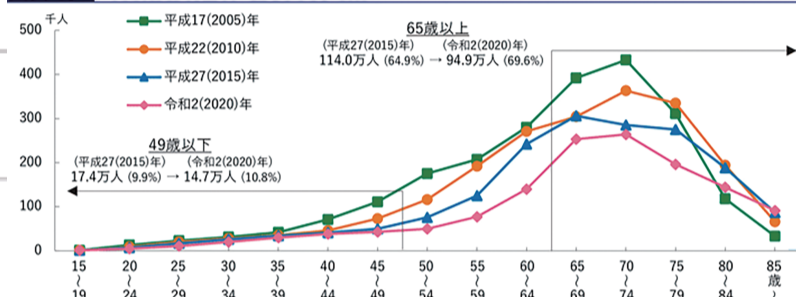
### 原因その②消費量の減少に伴う農業従事者の減少・高齢化

日本の農業は、後継者不足や高齢化が深刻な問題となっています。令和2（2020）年の基幹的農業従事者数のうち、65歳以上の階層は全体の70%（94万9千人）を占め(\*2)、更に、食の欧米化に伴う消費量の減少の影響で、1956（昭和31）年には332.0万haだった水田面積は、2022（令和4）年には235.2万haと、過去65年ほどの間に100万ha近く減少してきました。(\*3) これにより、耕作放棄地が増え、お米を作ることができなくなる田んぼが増加しています。

### 原因その③その他

安すぎる米価が、再生産を不可能にしています。安すぎる米価が生まれた背景として長年にわたり、消費者は「安いコメ」を求めてきました。また、コメは国民の主食であるため、政府の政策も価格の安定を重視し、価格が上がりすぎないように市場に介入することがありました。一方で、生産コスト（肥料や燃料など）は上昇を続けているため、農家は価格競争に巻き込まれ、利益を出しにくい状況が続いています。特に小規模な農家では、長年にわたり販売価格が生産コストを賄えないほど低い水準だったケースが多く、米だけでは採算が取れないため、兼業で他の収入を得ることで生計を立てているのが現状です。

図表 特-2 年齢階層別基幹的農業従事者数



資料：農林水産省「農業センサス」、「2010年世界農業センサス」（組替集計）  
注：1）各年2月1日時点の数値  
2）平成17(2005)年の基幹的農業従事者数は販売農家の数値

## これらの課題を解決するために どんな対策が必要でしょうか

## 食の未来を繋げる「国消国産」

#### 1. 高温耐性品種の開発：

暑さに強い新しい品種が開発され、普及が進められています。高温耐性（登熟性）品種導入の必要性が見込まれます。

#### 2. 田植期の移動など：

田植えの時期をずらして、高温を避ける作期作型や水管理を行うのが有効です。

#### 3. スマート農業の導入：

ロボット、AI、IoT など先端技術を活用し、作業の自動化、情報共有の簡易化、データの活用など効率化・精密化することで、安定した生産を目指す取り組みも進んでいます。

#### 4. 国民の意識改革：

私たちが国産のお米を積極的に消費することで、生産者の所得向上につながり、お米を作り続ける意欲を支えることができます。

「国消国産」とは国民が必要とし、消費する食料は、できるだけその国で生産するという考え方です。農地を耕し、自然と調和しながら、長い月日をかけて育まれる農畜産物は、不足したからといってすぐに作れるわけではありません。生きるために必要な食料は、国消国産であればおいしく安心・安全な食事を実現できるだけでなく、日本の農業を食べて応援できます。更に、自給率アップでいざという時安心があり、輸送で出るCO2を減らしSDGsに貢献することもできます！

### まとめ

ライフスタイルの変化や価値観の多様化に伴い、私たちの食生活はたくさんの選択肢が増えていきます。しかしながら、食の欧米化によって生活習慣病に起因する疾病が増えました。日本の伝統的な食文化を改めて見直し、健康的な食生活について再認識してみると、お米の重要性がご理解いただけたのではないのでしょうか。お米を美味しく食べることで生産者と消費者が相互に支え合い、健康的な日本型の食文化と日本の農業を守り、さらには持続可能な未来の実現や課題解決に貢献することができる食料なのです。日本の食の未来を守るため、積極的な消費でお米を守っていききたいものです。

引用・参考：\*1 地球環境研究センターニュース、地球温暖化と「水」 <https://www.cger.nies.go.jp/cgernews/201809/333002.html>

\*2 農林水産省、(1) 基幹的農業従事者 [https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w\\_maff/r3/r3\\_h/trend/part1/chap1/c1\\_1\\_01.html](https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/r3/r3_h/trend/part1/chap1/c1_1_01.html)

\*3 農林水産省、お米と食料安全保障 [https://www.maff.go.jp/j/syuan/keikaku/soukatu/okome\\_majime/content/food.html](https://www.maff.go.jp/j/syuan/keikaku/soukatu/okome_majime/content/food.html)